

かん のんどう い せき おおはさままち
観音堂遺跡は花巻市大迫町にあります。大迫総合支所から北西約 400m、標高約 174m ~ 160m のブドウ畑などが広がる北から南へ張り出す台地上に立地しています。全体で約 15 万㎡以上の面積があります。

この台地の縁辺部には、縄文時代中期後半～後期前半頃の竪穴建物跡群（住居跡群）が並び、台地中央には遺構のほとんどない広場がつくられ、『環状集落』だと考えられます。遺跡内には、300 ~ 400 棟ほどの住居跡が埋もれているとみられ、岩手県内では最大級の集落跡です。縄文時代の中
期後半の住居跡には、「複式炉」がつけられています。複式炉とは、住居の中央から壁際にかけて複数の炉が連なる構造のものをいいます。この炉跡を持つ住居跡群は、その出現期から消滅期までのものを見ることができ、複式炉の用途・性格を考える上で大変貴重です。また、出土した縄文時代後期前葉（約 4,000 年前）の土器群は、「観音堂式土器」と呼ばれ、縄文時代の北上川流域の土器指標となるものであり、全国的にみても注目度が高い遺跡です。



第1号住居跡(1979・80年調査)